

国際日本学部 歴史民俗学科

教育研究上の目的

歴史民俗学科は、日本の歴史と民俗に関する理解を深め、アジアを中心とした国際的な視点から位置づけるとともに、歴史民俗資料の収集・整理・保存及び活用を可能とする能力を身につけ、歴史と民俗の継承、地域文化の創生、地域社会の活性化に積極的に寄与する人間の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本学科の教育研究上の目的等を踏まえ、国際日本学部歴史民俗学科では、学生が、

- (1) 資料実習やフィールドワークなどを通して日本の歴史と民俗を多角的かつ総合的に理解すること
- (2) アジアを中心とした国際的な視点から日本の歴史と民俗を位置づけられること
- (3) 歴史民俗資料の収集・整理・保存及び活用の技能を身につけること
- (4) 歴史と民俗の継承、地域文化の創生、地域社会の活性化の担い手となることを、教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学科のカリキュラムにおいて、所定の卒業要件単位を修得した者は、次に掲げる能力や知識・教養を身につけていると判断され、学士(文学)の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

- (1) 社会の変化に対応しながら問題を発見・解決することができる能力を身につけている。
- (2) 情報の収集・分析・発信の能力を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- (1) 外国語の基礎的な運用能力を身につけている。
- (2) 国際的な教養を身につけ、歴史と民俗を中心に日本の文化をより広い視野のもとに位置づける国際的感性を身につけている。
- (3) 歴史と民俗を中心に日本の文化を理解し適切に伝える文化間コミュニケーション能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

- (1) 日本の歴史と民俗についての専門的知識を身につけている。
- (2) 歴史民俗資料を収集・整理・保存及び活用する専門的知識と技能を身につけている。
- (3) 日本の歴史と民俗の継承の担い手として地域社会の振興に寄与できる専門的知識と技能を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学科は、日本の歴史と民俗を多角的かつ総合的に理解するとともに、歴史民俗資料の収集・整理・保存及び活用の技能を修得して地方文化の創生、地域社会の活性化に寄与できるように、以下のような学修・教育課程を編成し、教育・評価を行っています。

1. 教育課程の編成・実施

- (1) 世界や日本の現状を知り、多様な視点から考察することができる素養を身につける学部教養科目
- (2) 日本の歴史と民俗についての専門的知識を修得しつつ、自ら歴史民俗資料を収集・分析・発信する能力を育成する、少人数教育による双方向型の演習・ゼミナール科目
- (3) 日本の歴史と民俗を客観的・実証的に理解するために、歴史民俗資料の整理・読解やフィールドワークを実践する実習科目

- (4)日本の歴史と民俗に関する専門的知識を時代や領域を横断して幅広く修得し、多角的かつ総合的に分析・解釈する視点と方法を身につける歴史分野・民俗分野の展開科目
- (5)歴史民俗資料を文化資源として地域社会の振興や文化交流など社会に活用する幅広い視点と多様な方法を身につける文化創生分野の展開科目
- (6)人間・社会・自然等にかかわる諸問題について広い視野を獲得する教養系科目

2. 教育の方法と評価

- (1)演習・ゼミナールでは、少人数・双方向型教育を徹底し、1年次に「FYS(ファースト・イヤー・セミナー)」と「基礎演習」、2年次に「専門演習」と「プレゼミナール」、3年次に「ゼミナール」、4年次に「卒業研究」を配置することによって、学生が専門的知識を段階的に修得できるように指導し、歴史民俗資料を自ら収集・分析・発信する能力を育成します。
- (2)実習科目では、1年次に「歴史民俗資料入門」、2年次以降に日本史の各時代を対象とする「歴史史料実習」、2・3年次に民俗調査の方法を学び調査を行う「民俗調査実習」を配置することによって、歴史民俗資料を収集・整理・保存及び活用するための実践的な能力を育成します。
- (3)日本の歴史と民俗、その学知を文化資源として社会に活用する文化創生について、隣接諸分野も取り込んで幅広く学ぶ展開科目では、時代や領域を横断した多角的かつ総合的な学びが可能になるように履修指導を行い、またアクティブ・ラーニングを活用し、学生が積極的に参加できる方法を探ります。
- (4)単位制度の実質化を図るため、成績評価の方法及び基準を明確化し、成績評価を厳格化しています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学教育によって培う能力

- (1)日本の歴史と民俗について多角的かつ総合的に理解する能力
- (2)国際的な視点に立って、日本の歴史と民俗を適切に位置づけられる能力
- (3)歴史民俗資料を収集・整理し、適正に保存することができる実践的な能力
- (4)歴史民俗資料を文化資源として活用して、地域文化の創生、地域社会の活性化の担い手となる能力

2. 本学科の求める入学者

- (1)基礎的な学力を有し、歴史と民俗を中心に日本文化についての学修に関心と意欲を持っている人
- (2)歴史民俗資料の調査やフィールドワークに興味を持ち、収集・整理・保存の実践的な技能を身につけたいと思っている人
- (3)日本の歴史と民俗を文化資源として活用して、地方文化の創生、地域社会の活性化に寄与したいと考えている人
- (4)世界と日本の文化交流に興味を持ち、世界の中で日本文化が果たすべき役割について考えたいと思っている人

3. 高校までの能力に対する評価(選抜方法)

本学科では多様な入学試験を実施することにより、

- (1)高等学校までの学習を通じて大学での学びに必要な基礎学力を身につけた人
 - (2)歴史と民俗を中心に日本文化について関心を持っている人
 - (3)歴史民俗資料を文化資源として活用して、地方文化の創生、地域社会の活性化に寄与したいと考えている人
- を受け入れます。